

100周年記念



入り口のドアを開けると、目に飛び込んでくるのは、赤い円筒形の郵便ポスト、板張りの壁が続く長い廊下、格子窓、手動式の電話機……。どこか懐かしい雰囲気がいっぱい、その先には何かがあるのか期待が高まります。

ここは、定山溪小学校の校庭にある「定山溪郷土博物館」。同博物館は昭和五十年、同校開校七十周年を記念して校内に開設された「郷土学習資料室」に始まります。昭和五十三年には、定山溪温泉街の発展と人々の生活を支えた定山溪鉄道の資料をはじめ、開拓当時をしのぶ生活用品や農具などを展示した「定山溪小学校郷土博物館」として開館。収蔵品は千点を超えました。

その後、これらの資料を地域全体の文化遺産として引き継いでいくと、校庭にあった図書館を改装し、昭和五十七年「定山溪郷土博物館」として移転完成しました。



昨年、同校が開校

百周年を迎えたこと、定山溪の名を世に広めた僧侶、美泉定山の生誕二百年であったことを記念し改修を計画。検討会議を重ね、先月、四月二十八日にリニューアルしました。



▲さまざまな意見が出された検討会議

温泉街や定山溪鉄道、希少な鉱物を多く産出した豊羽鉾山といった定山溪地区特有の歴史資料がテーマごとに見やすく展示されているので、初めて訪れた観光客や児童なども、楽しみながら歴史や風土を知ることが出来ます。

定山溪の自然環境を紹介するコーナーでは、昆虫や樹木の標本、キツネやリスのはく製などが展示されています。続く定山溪の成り立ちを学ぶコーナーでは、定山による温泉地開発から現在に至るまでの歴史を音声解説し、スクリーン裏の資料がライトアップされて見えるという凝った仕掛けが施されています。次に「生活」、「温泉・観光」、「林業・鉱業」、「農業」、「教育」に関する資料がそれぞれ多数展示され、間近で見ることが出来ます。また、館内奥には、電車プレートや写真、時刻表など定山溪鉄道ゆかりの品々も展示されています。

ボランティア

これらの収蔵品の整理は、札幌国際大学「博物館研究会」の学生が中心となり、同校の長崎潤一教授や北海道開拓記念館の学芸員などの指導のもと、ボランティアとして協力しています。

貴重な歴史資料を後世に引き継ぐために、三十年前の収蔵目録と照合しながら、千点を超える収蔵品全ての写真を撮り、その提供者や解説をデジタルデータベースとして整理します。リニューアル後も博物館に足を運び、引き続き作業を続けていきます。

長崎教授は「資料のデジタルデータベース化だけではなく、展示資料を実際に使用していた方の経



▲精力的に活動に励む国際大学の学生たちと長崎教授（後列中央）

験談を収録し、残していきたいと思っています。今後は研究会以外にも、多くの学生と一緒に作業に取り組もうと考えています」と話しています。

同研究会の部長である、三年生の鈴木あやさんは「歴史資料の整理に携わる機会は、大学博物館以外にはほとんど無いので、貴重な経験をしています。

地域や市内の方に限らず、学校博物館として多くの児童にも見学してもらいたいです。次の時代につながる、また、観光ルートの一つの施設として、定山溪地区の発展に貢献できればうれしいです」と意気込みを語りました。



▶大掛かりな改修工事



▶皆で思索しながら資料の整理

資料の整理